

「教育相談だより」

第13回

子どもに出会う前に
把握しておきたい
ポイント

本連載も二年目に入りました。「本当にそうよね〜」と共感してもらえそうな、「そうだったのか〜」と新しい発見があるような、そのような教育相談だよりをつくるお手伝いができたらと考えております。新しい気持ちで進めていきます。本年度もよろしく願います。

今月は「子どもに出会う前に把握しておきたいこと」がテーマです。どの学校でも引き継ぎは必ず行われると思いますが、知っておくと子ども理解がすすむのではないかと、また支援を早くスタートさせられるのではないかと、思うポイントを三つご紹介したいと思います。

今までの遅刻・欠席・早退などの
日数と理由

不登校に該当する三〇日以上欠席を

している子どもは必ず引き継ぎがあると
思いますが、遅刻や欠席が一〇日以上あ
る（インフルエンザ等の出席停止の場合
を除く）子どもは、把握をしておいたほ
うがいいと思います。

遅刻や欠席が一〇日あるということは、
長期の休暇以外に月に一回は遅刻や欠席
をしていることとなります。月に一回必
ず熱が出たり、風邪をひいたりすること
はあまりないと思います。このことは養
護教諭としても実感しています。定期的
な欠席がある子どもを把握すると、欠席
につながる理由や本人の特性などについ
て、新年度から観察することができま

す。
欠席の理由が「体調不良」とか「気分
が悪い」というような曖昧な理由のとき
にはさらに注意をしておきます。病気では
なく他の理由の登校しづりが隠れてい



宮崎県公立中学校養護教諭
宮内 英里子

みやうち えりこ 生徒指導困
難校と呼ばれた中学校に勤務し
たことをきっかけに、大学院で
教育臨床心理学を学びました。
子どもたちの問題行動に悩
む担任支援に情熱を注いでい
ます。公認心理師。

教育相談だより

月 日 No.

子どもに出会う前に把握しておきたいポイント

今年は新しい時代が始まる記念すべき年になりそうです。いつもよりいい出会いをしたいという気持ちが高まります。そこで新年度、子どもに出会う前に把握しておきたいポイントを3つ取り上げます。



引き継ぎのプリントはもらったけど、子どもに出会う前に知っておいたほうがいいことは他にないだろうか。

① 今までの遅刻・欠席・早退の日数とその理由

- ・インフルエンザなどの出席停止を除き、年間の遅刻や欠席が10日以上になっている子どもを把握する。
- ・欠席理由が「気分が悪い」とか「体調が悪い」という曖昧な理由が多い子どもを把握する。

- ・年間の欠席が10日以上になると、夏休みなどを除き月に1日は欠席していることとなります。病気を理由にしても、本当は登校しぶりが隠れているかもしれません。
- ・定期的な遅刻も、生活習慣のようすや登校しぶり、保護者のかかわり方を知るきっかけになります。

② 学力や学習のようす

- ・教科の学力（テストの結果）を把握する。
- ・学習につながる宿題や課題の提出状況を把握する。
- ・授業中の集中力や手遊びなどの状況を把握する。

- ・「勉強がわからない」ということは、登校意欲をなくす原因の大きな要素です。登校していても自己肯定感の低さにつながったりして、他の問題行動を生むこともあります。
- ・宿題や課題の提出状況、授業中の集中力なども把握しておくことで支援のスタートが早くなるかもしれません。

③ 家庭環境と子どもへのかかわり方

- ・ひとり親家庭や再婚家庭などがあれば把握する。
- ・子どもへのかかわり方に問題があるのではないかと思われる家庭を把握する。
- ・注目獲得行動をする子どもを把握する。

- ・配慮が必要になる可能性がある家族構成は把握したほうがいいと思います。しかし、最も子どもへの影響が強いのは「子どもへのかかわり方」だと思います。見た目の家族構成だけにとらわれずに、子どもへのかかわり方を把握しておくことが大切です。
- ・また、注目獲得行動が多い子どもや、新年度の「お試し行動」がある子どもは愛着の問題を抱えていることがあるので、そういう子どもの把握は早い支援につながると思います。



これらの3つが引き継ぎに含まれていなければ、ぜひ把握するようにしましょう。前担任や教科担任、専科、教育相談・特別支援教育担当、養護教諭などが頼りになると思います。

るときに、こういう曖昧な欠席理由になることがあります。

しかし、昨年度まで不登校傾向にあっても、新年度になって、新たに出会う友達や担任の対応の仕方が本人に合っていない、本人自身が成長していたりすると、スムーズな登校ができるようになることもあります。引き継ぎ情報を把握しながらも、新鮮な目で子どもたちを見ていきたいものです。

学力や学習のようす

前述の不登校傾向にもつながる問題ですが、学力や学習のようすを把握しておくことはとても大切です。「勉強がわからない」ということは登校意欲をなくす大きな原因の一つですし、登校していても自己肯定感の低さなどにつながり、他の問題行動を生むことがあるからです。

学力が非常に高いか低いかだと目立つので引き継ぎをされることが多いでしょうが、WISC-IVというなら「平均の下」あたりにいるあまり目立たない子ども

もたちが、学習に苦戦していることが多いと思います。

成績はもちろんのこと、授業中の手遊びや集中力のようす、宿題や課題の提出状況などを把握すると、「勉強がわからなくて、集中力のなさにつながっているのではないか」「宿題や課題が難しく一人できず、未提出につながっているのではないか」「発達の問題があり、集中力がないのではないか」などという推測ができません。

家庭環境と子どもへのかかわり方

家庭環境が子どもに与える影響は、子どもの年齢に関係なく非常に大きいことをよく経験します。子どもは、家庭環境をベースとして、その上に学校生活を載せている、というイメージです。

子どもに影響を与える家庭環境といえば、「ひとり親家庭」「再婚家庭」「貧困家庭」のような環境を想像すると思います。しかし本当に影響を与える環境は、「保護者の子どもへのかかわり方」だと思うの

です。保護者の子どもへのかかわり方によっては、一見恵まれたように見える家庭環境でも愛着の問題が起き、さまざまな問題行動につながっていくことがあります。

愛着の問題を抱える子どもは、年度はじめに先生の注目を引きたくていろいろ仕掛けてくることがあります。同じようなタイプの子どもがクラスに何人かいると、対応の仕方によっては、クラス運営がたちまち難しくなってしまう。わかる範囲で家庭環境を把握し、今までの問題行動から愛着の問題が存在しないかを推測しておく、年度はじめの「お試し行動」(本誌二〇一八年四月号参照)を阻止できるかもしれません。

早い支援のスタートのために

これら三つの項目を把握するのは、支援しなければならぬ子どもを早く見つけ、スタートから順調な支援をするためです。幸せな一年の始まりになることを願っています。